

県西部で発生するウメ枝枯症状は灰星病が主因であり、適正な防除管理で被害を軽減できます

神奈川県西部を中心に発生しているウメ一年枝の枝枯症状はウメ灰星病によって起きていました。
品種‘十郎’で重症化しやすく、開花前までの罹病枝の除去と‘十郎’の二分咲時と満開時の計2回薬剤散布をすることで被害が軽減できることがわかりました。

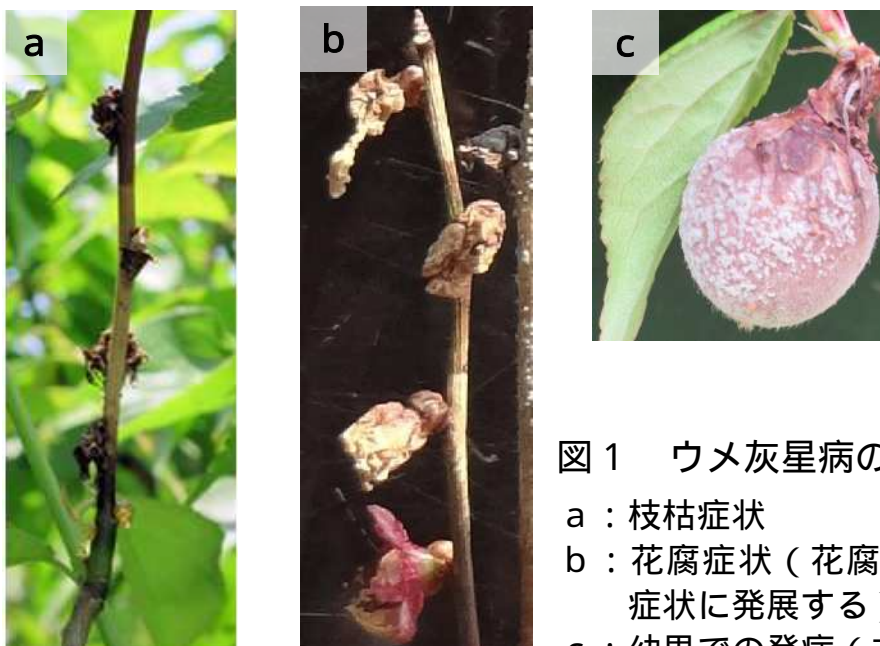


図1 ウメ灰星病の症状

- a : 枝枯症状
- b : 花腐症状（花腐れから始まり、枝枯症状に発展する）
- c : 幼果での発病（非常にまれな発生）

特別防除対策

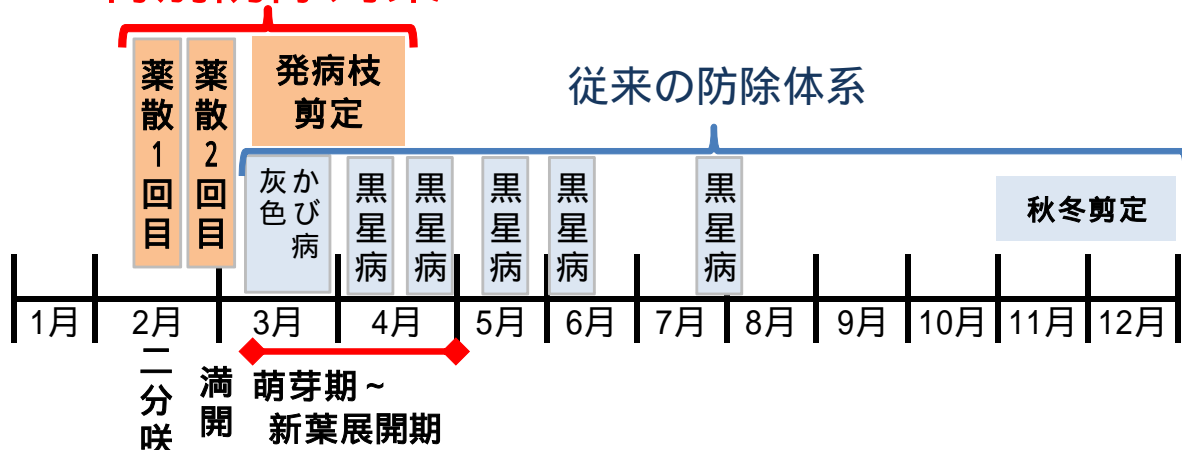


図2 ウメ灰星病の特別防除対策

おすすめの薬剤は、ベルコート水和剤とオーシャイン水和剤です（H28.5月現在）。農薬の使用については表示ラベルを確認してください。